

志摩町歴史資料館第9回特別展



# 製鐵遺跡

— 8世紀の官営工場 —

志摩町歴史資料館

## 第9回特別展「製鐵遺跡－8世紀の官営工場－」の開催にあたって

最近の埋蔵文化財の発掘調査による考古学の進展は目覚ましく、話題になる遺跡のニュースは頻繁に私たちの目にとまります。

次々と出現する遺跡があるかと思えば、研究者以外の一般の方々からは忘れ去られようとしている遺跡もあります。

志摩町西貝塚で18年前に調査された「八熊製鐵遺跡」も今では見る影もなく、そのような遺跡の一つではないでしょうか。

製鐵遺跡からは珍しい土器や、煌びやかな金属製品が出土するわけでもなく、見るものといえば赤く焼けた穴や、不純物である鉄滓ばかりです。

しかし、観点を変えてこの製鐵遺跡を見てみると、当時の社会情勢などが見え隠れしていて、なかなか興味深いものがあります。

今回の特別展では、八熊製鐵遺跡が操業されていた8世紀後半の鉄生産の裏側に何があったのか、ということにテーマを置いています。

力不足ながら、古代製鐵の一面を大胆に復元してみた第9回特別展「製鐵遺跡－8世紀の官営工場－」。

これをご覧になった方々の脳裏に、1,200年前の製鐵風景が浮かび上がってくれたら私たちとしても幸いです。

最後に、特別展開催にあたり、多大なご協力を賜りました関係の方々に、心よりお礼を申し上げます。

平成11年10月26日

志摩町歴史資料館

# 八熊製鉄遺跡から出土した遺物

ここに紹介する物は、八熊製鉄遺跡より出土したもので、鉄生産に不可欠な物がまとまって見ることができる。鉄滓や送風管、壁体片などを見ていると、「考古学の資料」というより「古代の産業廃棄物」と言ったほうがしっくりくるような気がする。

この頁は、図録の文中に頻繁に出てくる用語解説として目を通してもらえれば、理解の一助になると思う。



送風管



羽口（御床松原遺跡出土）



壁体



壁体（▲マークは送風孔を示す）



鉄滓



砂鉄（野北海岸で採取）

1. 八熊製鉄遺跡 (志摩町)
2. 千町田遺跡 (志摩町)
3. 藤原遺跡 (志摩町)
4. 吹切遺跡 (志摩町)
5. 大原D遺跡 (福岡市)
6. 大原A遺跡 (福岡市)
7. 元岡遺跡群第12次調査 (福岡市)
8. 元岡遺跡群第7次調査 (福岡市)



図1 嶋郡内の製鉄関連遺跡分布図

1981年（昭和52年）に発掘調査された志摩町所在の八熊製鉄遺跡は、県内でも本格的に調査された初の大規模製鉄遺跡として注目される。

可也山とその西側丘陵に挟まれたごく狭い谷間には、以前より鉄滓の出土が見られることで製鉄関連遺構の存在が予想されていた。

実際、八熊製鉄遺跡の周辺には、いまだ多量の鉄滓散布が認められるポイントが数ヶ所あり、古代製鉄所の規模拡大を想像させてくれる。

さて、志摩町を概観してみると、かつて製鉄が盛行していたことを示唆する地名、遺物表採地が点在する。

八熊製鉄遺跡がある貝塚地区の名の由来は、「カジヅカ（鍛冶塚）」が転訛したという説がある。付近には「ガジヤヅクリ」の字名も残る。

野北地区には「吹切（フイキリ）」、「合火屋（オビヤ）」の地名が海岸に面した丘陵地にあり、平成元年には製鉄関連遺跡として吹切遺跡が調査されている。同じく野北には「田々羅（タタラ）」という地名も見られる。

貨泉・半両銭の出土で有名な御床松原遺跡からは8世紀後半代の製鉄関連遺構も数基検出されている。これとの関係を見逃すことはできないのは、御床西林寺に現存する床鉄であろう。国指定重要文化財の阿弥陀如来座像の前に安置される巨大な一枚鉄は、「筑前国続風土記」では唐より伝来した仏像の下に敷いていたとされ、「御床」の地名はここから発したとあり、引津湾沿岸一帯は御床の内とされ、観世音寺の領地であったと記される。

# 模型で甦る八熊製鉄遺跡



製鉄炉の作業風景



足踏みフィゴと製鉄炉



砂鉄の供給。手前は不純物を排滓している



指揮を執る監督者（青い服）



炭窯で働く人



鉄滓の排滓風景

する役が1人いる。

服装の色が1人だけ異なるのは、指揮を執る監督者である。

炭窯に1人がつき、材木を運ぶ人もいたであろう。彼の背負子は、志摩町で保管する民俗資料を参考にしている。

壊された炉は4号炉で、炉底滓が見えている。ここは分かりやすいようにわざと壁体を残している。

谷には、鉄滓や破壊した壁体、使用済み送風管が廃棄され、堆積している状況を再現してみた。

つまりこの模型は、八熊製鉄遺跡の遺構配置図を借り、鉄生産にかかる時間までもを濃縮した相対的な推定再現をしているのである。

しかし、これに近い様子が1,200年前の志摩町で行なわれていたことは想像できるのではなかろうか。

なお、この模型は全て担当者の手作りによるものなので、細かいディテールなどが表現されていないことには、ご了承とご理解を願いたい。



志摩町歴史資料館